



1 駅名改称の背景と目的

本市は、都心に近接しながら豊かな自然環境と都市機能が調和し、地価も廉価なことから、子育て世代などの定住の地にふさわしいと考えます。市民の皆さんは本市を「住みよい」と感じており、定住志向についても「このまま住み続けたい」と考えている方が大半を占めています【図1】。

しかし、人口減少社会が到来している現在、持続可能な地域経営の基盤確立には、本市からの人口流出の抑制はもとより市外からの人口流入の増加を目指す定住促進などに取り組む必要があります。

そのため、本市の玄関口である常磐線佐貫駅周辺地域を活性化し、その効果を市内全域に波及させていくことが有効であると考えています。具体的には、本年度から佐貫駅周辺地域整備基本構想（グランドデザイン）の策定や牛久沼を生かした道の駅の整備、駅前保育送迎ステーションの設置など、地方創生にも照応した取り組みを始めています。

しかし、市外在住者の認知度が低い本市に関心を示してもらうことは、かなり困難な状況にあります【図2】。このままでは、恵まれた地域特性や住環境を生かしたさまざまな取り組みや、市民の皆さんの「住みよい」「住み続けたい」という思いも伝わりません。そこで、まずは本市の存在や位置を「知ってもらうこと」「関心を持ってもらうこと」が大切となります【図3】。

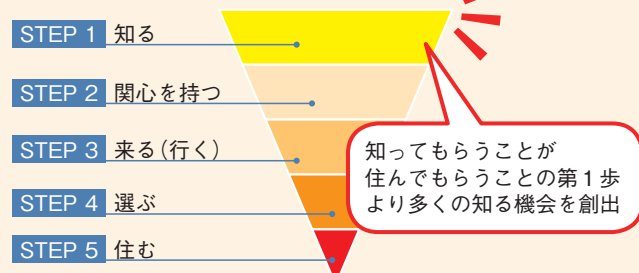
本市の重点施策である「子育て環境の充実・市民活動の促進」に加え、本市の認知度と情報接触度の向上を図るとともに、名実ともに本市の玄関口にふさわしい賑わい創りなどを総合的に推進していくことで、定住促進や交流人口の増加へ発展させていく、そのために、私たちのまち龍ヶ崎市を全国に知らせる絶好のチャンスが「JR 常磐線佐貫駅の改称」です。市民の皆さんをはじめ、企業などからも賛同の声が寄せられています。

【図2】 龍ヶ崎市のランキング

区分	全国順位	県内順位
認知度	543位	15位
情報接触度	671位	19位
魅力度	612位	9位
居住意欲度	778位	13位

出典：地域ブランド調査 2014
調査対象=全国 1,000 自治体 県内 36 市町

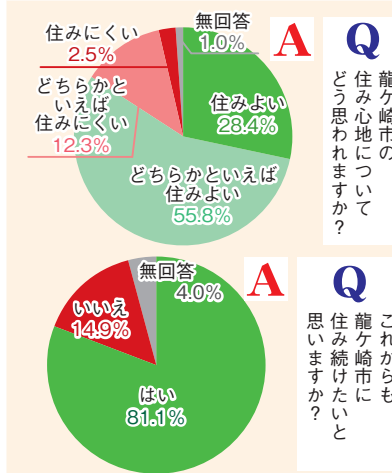
【図3】 シティプロモーション活動の5つのステップ



駅名改称のポイント

- 本市の認知度は低い
- 本市に関心を持ってもらうために「知ってもらうこと」が必要
- 駅名改称は本市の存在と位置関係を知ってもらう重要な手段

【図1】 龍ヶ崎市の印象



出典：まちづくり市民アンケート調査報告書

2 駅名改称の費用

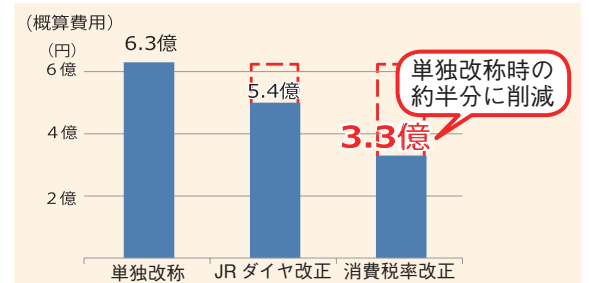
駅名改称には、路線図や駅案内板の改修、Suica（スイカ）システムの改修などが必要となります。この改称作業は鉄道事業者が行いますが、本市が費用を負担することになります。

このため、もっとも費用の削減が見込まれる時期に、改称をあわせることが重要です。

仮に単独改称を行った場合は、約 6.3 億円の費用が見込まれています。本市では、鉄道事業者と最も費用が削減できる時期を協議してきました。この結果、総費用の上限が約 3.3 億円となり、単独改称と比べ約 5 割の費用削減が見込まれる「2017（平成 29）年 4 月 1 日（消費税率改正）」の改称がベストと考えています【図4】。

駅名改称の費用はシステム改修などにより増加傾向にあるため、先送りは不利と考えられます。

【図4】 概算費用



駅名改称時期のポイント

- もっとも費用の削減が見込まれる時期に改称
- 消費税率改正時は単独改称時の約半分の費用
- 改称時期は平成 29 年 4 月 1 日がベスト

今後もより一層の費用削減に努めます

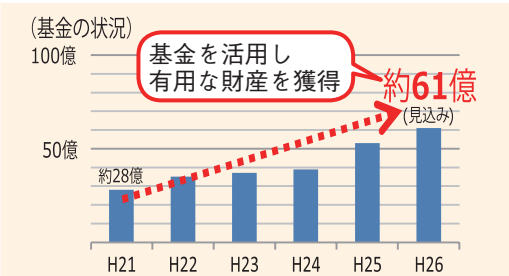
3 財源の想定

本市は平成 13 年度以降、行財政改革に継続して取り組んでいます。とりわけ、複雑多様化する行政需要に対する財源を確保するため、職員をピーク時から 2 割超削減するとともに、事業の民営化・民間委託などを推進してきました。財政収支が悪化した平成 20 年度は基金の繰り入れで黒字を維持しましたが、その後の第 3 次財政健全化プランの推進などで、収支は改善傾向にあります。

市の預金である基金残高は、平成 21 年度末の約 28 億円を底に平成 26 年度末には約 61 億円まで回復させました【図5】。

この基金を活用して改称費用を賄うことにより、市民サービスに影響を及ぼすことなく、市の「のれん」という将来にわたる財産を獲得することができます。

【図5】 基金の状況



財源想定のポイント

- 本市の収支は改善傾向
- 基金を活用し、有用な財産「のれん」を獲得

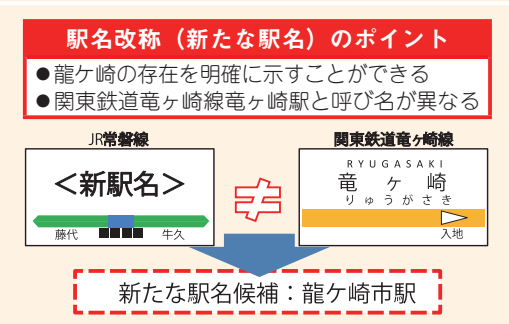
4 新たな駅名の候補

新たな駅名のポイントは、松戸、柏、我孫子、取手、牛久などと同じように市外在住者に「龍ヶ崎市の存在を明確に示すことができるもの」とすることです。

この観点から、新たな駅名としては「龍ヶ崎駅」または「龍ヶ崎市駅」のように、駅名と自治体名が一致したものと考えられます。ただし、市内には関東鉄道竜ヶ崎線の「竜ヶ崎駅」があることから、これと同じ呼び名を付けることはできません。

このため、JR 常磐線「龍ヶ崎市駅」が最有力候補と考えられます。なお、関東鉄道竜ヶ崎線の駅名は現状どおりで、同線の「佐貫駅」は残ることになります。【図6】。

【図6】 新たな駅名



「JR 常磐線佐貫駅改称」に関する意見交換会を開催します！

- 5月24日（日）午後1時30分から／城ノ内コミュニティセンター
午後3時30分から／龍ヶ崎コミュニティセンター
- 6月6日（土）午前9時30分から／馴染コミュニティセンター
午後1時30分から／久保台コミュニティセンター

意見交換会は1時間30分程度を予定しています

どの会場でも参加できます。申し込み不要。多くの皆さんの参加をお待ちしています。

龍ヶ崎市の地方創生の取り組み（平成 27 年度の主な事業などから抜粋）



▶ 龍ヶ崎市の地方創生とは

本市は、平成 22 年度までは人口は増加傾向にありましたが、平成 23 年度から減少に転じています。現在のところは微減にとどまり、全国的に話題となった「消滅可能性都市」には該当していません。しかし、人口減少の潮流は明らかで、このままでは将来的に 5 万人台への突入も現実のものとなり、税収の減少などから現在の行政サービスを維持することが困難と考えられます。

そのため、安定した雇用の創出、若い世代の結婚・出産・子育てへの支援、新たな人の流れの創造などを基本目標として地方創生に取り組み、賑わいの創出や定住促進などにより、持続可能な地域経営の基盤構築を目指していきたいと考えています。本年 12 月までに人口ビジョンと総合戦略の策定を進めます。



▶ 地方創生の大きな取り組み、にぎわいの創出と定住促進

若者・子育て世代などの定住促進、交流人口の増加を図るため、牛久沼を含む佐貫駅周辺地域の土地利用などについて基本構想を策定します。また、竜ヶ崎駅北地区を新都市拠点開発エリアとし、この地域の事業化調査を行います。さらに、中心市街地を対象に、まちなか再生の検討を進めます。

■ 佐貫駅周辺地域の整備

- 佐貫駅周辺地域整備基本構想策定（ランドデザイン）
- 佐貫駅東口ロータリー改修（渋滞緩和と安全性向上）
- 常磐線佐貫駅の駅名改称
- 佐貫排水区雨水貯留管実施設計

■ 新都市拠点開発エリア（竜ヶ崎駅北地区）の事業化調査

■ 道の駅整備基本構想策定



その他の事業

- 龍ヶ崎ブランドアクションプランの推進
- シティプロモーション活動
- 若者・子育て世代住宅取得補助
- 龍ヶ崎観光大使の創設
- 龍ヶ崎コロッケ日本一事業
- 観光案内板・市民遺産説明板の設置
- 大型プレミアム商品券の発行
- 農産品認証制度 など

▶ 子育て環境日本一に向けた教育・子育て環境の充実

保護者からの相談や、子育て支援サービスの情報を提供する専門の相談員として、「子育て支援コンシェルジュ」を配置し、子育てしやすい環境づくりを進めます。また、子育て世代の健康増進策として、生活習慣病健診の対象者を、40 歳以上から 35 歳以上に拡大します。

また、駅前保育送迎ステーションの開設に向けた具体的な検討を進めています。



- 子育て支援コンシェルジュの配置
- 35 歳以上の生活習慣病健診の実施
- 子ども・子育て支援新制度

その他の事業

- 学力の向上（市独自の少人数措置など）
- 英語指導助手（AET）の充実
- 長山小学校・久保台小学校保育ルーム空調機増設工事
- 保育待機児童ゼロの継続
- 移動式赤ちゃんの駅の整備
- こどもまつりの開催
- 駅前保育送迎ステーションの検討 など

▶ 他市に誇れる安心・安全な生活環境づくり

夜間における地域住民の安全を確保するため、約 7,000 基の防犯灯をエネルギー効率と耐久性に優れた LED に転換します。また、給水車としても利用可能な小型動力ポンプ付水槽車（6t 積）の配備や老朽化した消防ポンプ自動車を更新し、防災力の向上に努めます。



- LED 防犯灯設置工事（地区内約 7,000 基）
- 小型動力ポンプ付水槽車の配備・消防ポンプ自動車の更新

その他の事業

- 交差点や公園への防犯カメラの設置
- 乳幼児およびアレルギー対応備蓄品の充実
- 避難所対応屋内用間仕切りテントの購入
- 消防団活動の充実（団員の処遇改善 報酬・出動手当）
- 塗戸町急傾斜地崩壊対策事業（県事業への負担金）
- 除雪費などの大雪対策
- 生活困窮者自立支援事業 など

▶ 交流人口の増加、経済活性化に向けた公共施設・インフラの整備

総合運動公園をリニューアルし、市民スポーツの振興をはじめ、当市でスポーツを「する」「みる」方々を多く呼び込む取り組みを進めます。その一環として、平成 27 年度はたつのごフィールドにバックスタンドなどを建設します。また、佐貫駅と牛久沼方面のアクセス向上および県道竜ヶ崎潮来線と佐貫停車場線との連絡道のうち未整備区間について早期整備を行い、県道間のアクセス向上を図ります。



- 総合運動公園リニューアル事業（たつのごフィールドバックスタンドなどの整備）
- 都市計画道路佐貫 3 号線整備事業
- 市道Ⅱ-7 号線整備事業